



佐世保市立歌浦小学校

所在地 佐世保市鹿町町下歌ヶ浦791番地11

校長 泉 清一

児童数 93名 学級数 9学級

学校教育目標…やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成
目指す子ども像…「つよく」・「かしこく」・「あたたかく」
今年度テーマ …「愛」のある歌浦小



- 1 確かな学力を育てる教育の推進
- 2 豊かな心を育てる教育の推進
- 3 たくましい体をつくる教育の推進
- 4 信頼される学校づくりの推進

1 目的

- (1) 学社融合、異校種交流、中学校区学校間交流の充実をめざした体験学習と交流学习を推進させることで、確かな学力と児童のコミュニケーション能力の育成をめざし、豊かな心を育むとともに、ふるさと・歌浦への愛情を深める。
- (2) 児童の学習状況を把握し、学び合う学級づくりと、国語科及び算数科の授業改善を展開し学力向上をめざす。また、サポートティーチャーによる授業支援（算数科の個別支援）を行うことにより、学習の理解や活動に遅れの見られる児童に対応し、基礎学力の定着を図る。さらに毎週金曜日の始業前に実施するチャレンジタイム算数においても、チャレンジティーチャーによる学習支援を行い、学力向上をめざす。
- (3) 地域や保護者との連携により、ボランティア活動の充実と教育環境の充実をめざす。（登校時の見守り・あいさつ運動、本の読み語り活動）

2 主な実践内容

(1) 全校での主な実践

① 地域サポートティーチャーやチャレンジティーチャーによる学習支援（全学年）

低・中学年の授業へのサポートティーチャー（2名）による学習支援を実施した。また基礎学力定着に向けて、毎週金曜日の「算数チャレンジタイム」を、始業前に15分間実施した。この時間には、担任とチャレンジティーチャーの2人体制で学習支援を行った。

② ボランティアによる登校時の見守り活動

朝の登校時には、ボランティアとして地域の方や校長、担任等も通学路に立ち、安全見守りとあいさつ運動を行った。今年度は、特に「ワンストップあいさつ」に心がけた。また、毎月12日には民生委員と担任及び担当学年の児童による校門でのあいさつ運動も実施した。



③ 読書活動の充実

読書活動の充実に向け、図書委員会の児童が定期的に図書室の本をコンテナに入れて、全学級に配本して、子どもたちが色々な本を手にとることができるようにした。また、毎週月曜日の朝は、図書ボランティア「アリスの会」による本の読み語りを行った。絵本や紙芝居を使った読み語りは、読書への興味関心を高める活動の1つとなっている。



④ 保・幼・小連携

11月に近隣の保育園や幼稚園と給食試食会を行った。2月には、体験入学と交流会を実施した。体験入学では、1年生の教室に入り、授業の様子を見学したり、授業に参加したりした。また、5年生との交流では、学校紹介やクイズを行った。園児は、「給食がおいしかった。クイズが楽しかった。」ととても喜んでいて、園の引率の先生方も、入学前に体験活動ができたことに充実感を得ていた。



⑤ 地域との連携

3年生のスイートコーン栽培、4年生の福祉学習、5年生の米作り体験学習や水産学習では、ゲストティーチャーの指導を受けながら充実した学習に取り組むことができた。自分たちの知らない町の良さを改めて発見することで、今まで以上にふるさとを愛する気持ちが高まった。



(2) 各学年の主な実践

① 全学年によるサポートティーチャー [通年]

地域の元教員の方など2名に授業に入ってもらい、個別支援の充実を図った。低学年の国語や算数に介入支援していただき、一人ひとりの実態に応じた指導を充実させることができた。

② 3年生による野菜の栽培活動「スイートコーン栽培」 [4月～6月]

地域の畑で、スイートコーンの苗植えから収穫までの一連の栽培活動を行った。収穫後は、日頃お世話になっているサポート先生や全校児童にも、たくさんのスイートコーンを配り、多くの人たちと収穫の喜びを分かち合うことができた。



③ 4年生による福祉学習および門松作り [7月・11月・12月・1月・2月]

例年、校区内にある高齢者施設「つつじの郷」を訪問し、バリアフリーについて学んだり、福祉用具の体験活動を行ったりしていたが、本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、高齢者施設への訪問は出来なかった。そこで、社会福祉協議会と連携して、福祉についての講義や疑似体験を行い、福祉についての理解を深め、お年寄りの方や障がい者の気持ちを学ぶことが出来た。また、1月にはボッチャ体験を行い、障がい者のスポーツに親しむことができて良かった。さらには、2月に地域の方の障がい者にお越し頂いた。これまでの体験談を聴き、障がい者用パソコンの操作を体験することができた。



12月には、地域のお年寄りと共に門松作りを行った。竹の割り方や竹の組み方等を教わりながら完成させた。お年寄りから門松の由縁や知識を学ぶことができ、良い機会となった。

④ 5年生による米の栽培学習 [5月～12月]

校内の水田を利用し、田の草取りから、種もみ選び、種まき、苗作り、しろかき、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等の全ての作業をサポートティーチャーの指導のもとに取り組んだ。子どもは、夏休み中も水の管理や害虫の駆除を行った。また、1本苗・3本苗・5本苗・7本苗と分けて植えた株の分けつの様子を継続して観察した。



(3) 校内研修の充実

① 本年度は、学力向上のための授業改善を重点に研修を行った。学力向上研修による授業研究や言語活動を通して、「めあて」と「まとめ」の整合性を追究していき、児童に「何を学ぶのか」「何を学んだのか」について考えさせる授業づくりについて研修を深めた。



② 次のことを重点的に指導することで、学びの風土を築く学習基盤づくりを推進できた。

- 学び合う学級づくり(ペア学習、グループ学習)
- 学習規律の確立
- スキルタイムの充実
- 家庭との連携
- 学習に集中できる環境づくり (OK筆箱)
- ことばの広場 (児童玄関掲示)

3 成 果

(1) 学力向上

- 各学級で、単元計画を児童と共に立て、単元のめあてや学習の経緯が分かる拡大した本文などを教室内に掲示しておくことで、何のために学習しているのかという目的やどのように学習するのかという見通しをもって学習するスタイルが定着してきた。
- 指導事項と関連した言語活動を精選して行うことで、「つきたい力」が身に付いているか、成果物などのパフォーマンス評価までしっかり行うことで確かめられるようになった。
- 年度初めにリーディングテストを行い、各学年の読み取に関する実態を把握した上で、全国・県・市の学力テストの結果分析を行い、全職員で課題を明らかにしながら方策を探り、授業の中でどのような活動を重視していくか改善していくことができた。
- 言葉を豊かにする環境を校内や学級で整え、意識して指導することで、年度末の標準学力調査の「書く活動」や「言語活動」の領域を中心に向上が見られた。
- Chromebook を活用した研究授業も積極的に行い、思考を深めて共有する場面や学習のふり返りの場面での活用方法を共有し合い、職員のスキルアップができた。

(2) ボランティアによる学習支援

- 「チャレンジタイム」では、全学年の児童が算数と国語のスキル学習に取り組んだ。算数の時間には、地域から6名の方がチャレンジ先生として学習支援に入った。また、本年度の低・中学年には、国語と算数の時間にサポートティーチャーに来て頂き、支援をもらった。



(3) 地域とともにある学校づくりの推進

- 学校評価の「学校の指導方針に共感でき、特色ある教育活動に満足している」の項目では、保護者は3.6ポイント、地域の方々から4.0ポイントと高評価を頂いた。地域の方々とはふれ合ったり、様々な行事に地域の方々を招待したりする機会が、昨年度よりも増えて、本校の特色ある活動を感じて頂くことができた。

(4) 各学年の体験活動

- 3年生のスイートコーン栽培や5年生の米作りは、数か月にわたり、雑草をとったり水を与えたりして、作物を育てることの苦労と収穫の喜びを学ぶことができた。特に5年生の米作りでは、栽培の過程で起こる様々な問題を課題に設定していくことで一人ひとりがさらなる解決に向けた学習に取り組むことができた。

4年生の福祉学習では、「ふくしってなあに」というテーマで、鹿町町のために活動されている方々に来ていただき、その活動内容や地域における役割について話をいただいた。このような地域の方との関わりは、あいさつや感謝の気持ちを学ぶ場として社会性を育てる貴重な体験となっている。また、例年は、高齢者施設「つつじの郷」を訪問し、施設見学や高齢者とのふれあいを行っていたが、本年度は、社会福祉協議会の職員に来て頂き、福祉についての講義や疑似体験学習を行った。また、ボッチャ競技の体験も行い、これらの体験学習を通して障がい者の思いを理解することができた。

